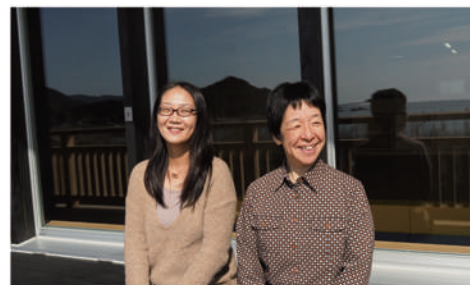




JGN アドバイザーへのインタビュー

土佐清水から世界基準のジオパークを

2月4日から5日にかけて、日本ジオパークへの新規加盟認定を目指す土佐清水に、日本ジオパークネットワーク (JGN) から、新名阿津子さんと古澤加奈さんにアドバイザーとして、来ていただきました。お二人ともユネスコ世界ジオパークの審査員として、世界各国を飛び回っている方。2日間、土佐清水を回って、サステイナブルツーリズム (持続可能な観光) や世界基準のジオパークのあり方を関係者にレクチャーしていただきました。そんなお二人に、土佐清水のことやジオパークの可能性などをおききました。



新名さん (左) と古澤さん (右)
竜串ビジターセンター “うみのわ” テラスにて。

お二人がジオパークにかかわりはじめたきっかけは？

新名) 私は、2010年から鳥取で山陰海岸ジオパークの調査研究や地域開発に携わるようになり、それから10年ジオパークの研究をしています。2012年にレスボス島ジオパーク (ギリシャ) での集中講義に参加し、ジオパークがボトムアップアプローチから対話と改善で社会を変えようとするプログラムであることを知り、強い興味を持つようになりました。

古澤) 私は学生時代にタイをフィールドに国際開発について研究していました。研究をする中で、持続可能な開発をどうやったら実現できるか良い方法が見出だせず、その後は裁判所などで開発とは無縁の仕事をしていました。語学力を生かして海外からの視察対応をする機会が増えたことをきっかけに、これまで勉強してきたことや好きなことを仕事にしたいと思っているところに、ジオパークというプログラムに出会い、室戸ジオパークで国際交流専門員となりました。

お二人は、ユネスコ世界ジオパークの審査員としても世界各地のジオパークを見ていると思いますが、世界と日本のジオパークの違いは？

新名) ジオパークが始まったのは、ヨーロッパ。ヨーロッパでは、アジアとは異なり、開発よりも保全に重点が置かれています。それから、ジオパークを主導しているのが、行政ではなく、民間事業者が多く、見せ方がとてもお洒落。

古澤) 海外では、ジオパークの理念を理解した上で活動している人が多いと思います。気候変動を意識している人も多いですね。一方、日本では、地域再生、交流人口の拡大を目的にジオパークを始めた地域が多く、地球規模で考えながら取り組む人がまだまだ少ないように感じます。

土佐清水がジオパークを目指している中で、こうしたらもつといいのというアドバイスや期待をお聞かせください。

新名) 土佐清水の観光でいうと、年間約70万人程度の入込数で、一人あたりの消費額が8,800円。ジオパークを通して「持続可能な観光」を実践するのであれば、入込客を100万人にすることより、消費額をあと1,200円上げて10,000円を目指すことをお勧めします。ジオパークを目指す地域として、環境や社会に対して、責任あるツーリズムを展開してほしいですね。

古澤) 土佐清水のアクセスの悪さやちょっとした不便さは、メリットになり得るもの。せっかくこんなに遠くまで来たのなら、ゆっくりしてもらって、気持ちよくお金を使ってもらえるようにしてほしいですね。土佐清水はいいものがあるのに、見せ方が下手。研究者や地元の人たち、いろんなところと連携しながら、土佐清水らしさを形にして、うまくプレゼンしてほしい。新しくできるビジターセンターも、単なる展示施設としてとらえるのではなく、ここから新たな動きを作り出してほしい。

お二人が「ジオパークっていいな」って思うところ、そして、今後のビジョンを教えてください。

新名) 日本全国、世界各地のジオパークのネットワークがもたらす様々な人との出会いが、新しいムーブメントを生み出しており、このダイナミズムは社会の発展に少なからずインパクトを与えていると考えます。その中で、研究者として、次の10年、どのように変化するのか楽しみにしています。そして、私は生まれた高知が好き。だから、いつか高知に戻って、研究をしながら、ジオパークによる持続可能な社会のあり方を高知から発信していけたらいいなと思っています。

古澤) 私は、ジオパークを通じて、Sustainable Development (持続可能な開発) を実践することで、グローバルな課題を解決していきたいと思っています。ジオパークは、地域から世界をよりよく変えることができるプログラム”Think globally, Act locally” (地球規模で考え、地域で実践する) で、各地のジオパークから世界を変えていきたいですね。

おふたりのプロフィール



新名 阿津子
NIINA Atsuko

伊豆半島ジオパーク推進協議会専任研究員。専門は人文地理学。鳥取環境大学准教授として、山陰海岸ジオパークをフィールドに研究後、現職。高知生まれのはちきんジオパークねえさん。



古澤 加奈
FURUSAWA Kana

日本ジオパークネットワーク (JGN) 事務局次長。2013年に室戸ジオパークで専門員になり、国際対応などの業務をこなす。その後、東京のJGN事務局へ勤務。高知の空気が恋しい今日この頃。

